

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3059476号

(45) 発行日 平成11年(1999) 7月9日

(24) 登録日 平成11年(1999) 8月17日

(51) Int.Cl.⁴

識別記号

F I

B 6 5 D 81/32

B 6 5 D 81/32

U

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 9 頁)

(21) 出願番号 実願平10-9991

(22) 出願日 平成10年(1998)11月30日

(73) 実用新案権者 000003188

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1丁目5番1号

(75) 実用新案権者 391003325

山陽産業株式会社

大阪府大阪市北区堂島1丁目1番25号

(72) 考案者 木村 良尚

東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

(72) 考案者 石黒 雅英

大阪府大阪市北区堂島1丁目1番25号 山陽産業株式会社内

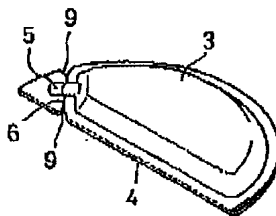
(74) 代理人 弁理士 藤本 英夫

(54) 【考案の名称】 二液混合容器

(57) 【要約】

【課題】 取り扱いを格段に容易にできる上に、注ぎだしや混合をより一層容易にする。

【解決手段】 保形性を備える合成樹脂を主体とした素材で形成された容器本体1の中心線2を挟んで左右に一对の収納トレイ3が備わり、前記容器本体1の中心線2を挟んだ左右対称位置で、かつ、対称形状に形成されてこの容器本体1の縁1Aに向かった所定長さの注出口5が前記各収納トレイ3の上端に連通連結されているとともに、この容器本体1の上面に蓋材6が接着されて、前記収納トレイ3並びに注出口5が密封され、かつ、この容器本体1が前記中心線2で二つ折りされている。

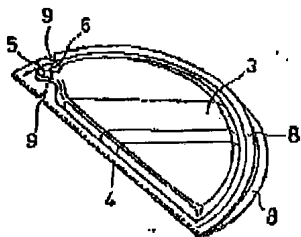


3…収納トレイ
4…ミシン目
5…注出口
6…ハーフカット

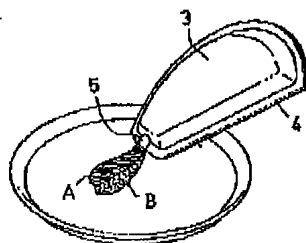
(3)

実登3059476

【図4】

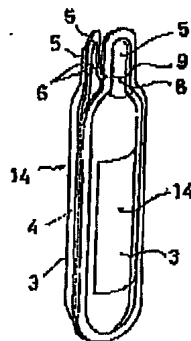


【図5】



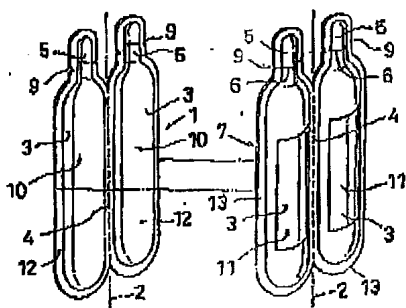
A...第1収納物
B...第2収納物

【図6】



14...収納物

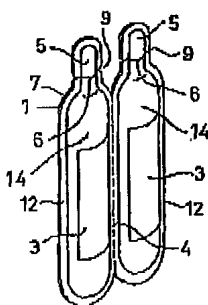
【図7】



1...容器本体
7...蓋材

10, 11...凹部
12, 13...周縁

【図8】



(2)

実登3059476

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 保形性を備える合成樹脂を主体とした素材で形成された容器本体の中心線を挟んで左右に一对の収納トレーが備わり、前記容器本体の中心線を挟んだ左右対称位置で、かつ、対称形状に形成されてこの容器本体の縁に向かった所定長さの注出口が前記各収納トレーの上端に連通連結されているとともに、この容器本体の上面に蓋材が接着されて、前記収納トレー並びに注出口が密封され、かつ、この容器本体が前記中心線で二つ折りされていることを特徴とする二液混合容器。

【請求項2】 保形性を備える合成樹脂を主体とした素材で形成された円盤形状の容器本体の中心線を挟んで左右対称位置で、かつ、半月形の対称形状に形成された一对の収納トレーが備わり、前記容器本体の中心線を挟んだ左右対称位置で、かつ、対称形状に形成されてこの容器本体の縁に向かった所定長さの注出口が前記各収納トレーの上端に連通連結されてなり、この容器本体の上面に蓋材が接着されて、前記収納トレー並びに注出口が封鎖され、かつ、この容器本体が前記中心線でこの蓋材が互いに重合するように二つ折りされていることを特徴とする二液混合容器。

【請求項3】 中心線を挟んで左右対称位置に、収納トレーと注出口とで瓶形状に形成され凹部を備えた、保形性を備える合成樹脂を主体とした素材で形成された容器本体と、この容器本体と同じ素材で形成され、同じ瓶形状の凹部を備えた蓋材とが、その周縁部で互いに接着さ

2

＊れ、二つの凹部で収納部が形成されてなり、前記中心線で二つ折りされていることを特徴とする二液混合容器。

【請求項4】 収納部は、前記中心線を挟んで左右に一对ずつ設けられている請求項3記載の二液混合容器。

【請求項5】 注出口部分の長さ方向の中間部分にはハーフカットが設けられている請求項1～3のいずれかに記載の二液混合容器。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係る二液混合容器をヘアカラー容器に適用した場合の第1の実施の形態を示す外観図である。

【図2】 図1に示された容器の分解斜視図である。

【図3】 図1に示される容器の横断面図である。

【図4】 図1に示される容器の製作過程を示す説明図である。

【図5】 図1に示される容器の作用の説明図である。

【図6】 本考案に係る二液混合容器をヘアカラー容器に適用した場合の第2の実施の形態を示す外観図である。

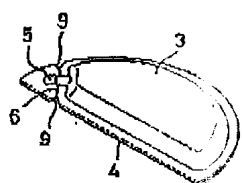
【図7】 図6に示される容器の分解斜視図である。

【図8】 図6に示される容器の製作過程を示す説明図である。

【符号の説明】

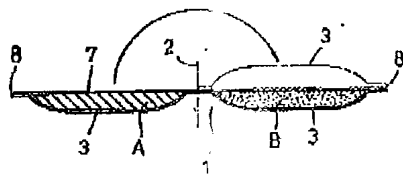
1…容器本体、2…中心線、3…収納トレー、4…ミシン目、5…注出口、6…ハーフカット、7…蓋材、8…上縁、9…切欠き、10、11…凹部、12、13…周縁、14…収納部、A…第1の液、B…第2の液。

【図1】

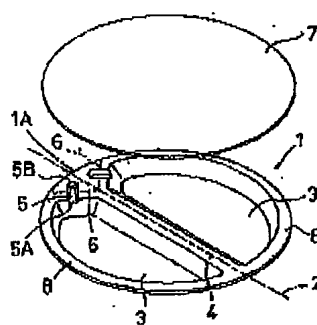


3…収納トレー
4…ミシン目
5…注出口
6…ハーフカット

【図2】



【図3】



1…容器本体
2…中心線
3…収納トレー
4…ミシン目
5…注出口
6…ハーフカット
7…蓋材
8…上縁